

# わたしの修習時代

紀尾井町：1948－70

湯島：1971－93

和光：1994－

62期

## 修習生活を振り返って

会員 佐藤 絢 (62期)

### 1 秋田へ

私は、新62期として2008年11月より約1年間の修習期間を過ごした。司法試験合格後実務修習開始までの約2か月間、各種手続や引越し等の準備で慌しく過ごす中、何の縁もゆかりもない秋田への配属決定を知り、大変不安に感じたのが最初の思い出である。もっとも、住めば都、知らない土地だからこそ文化や行事に触れ、修習生活を楽しもうと前向きに捉え、吹雪の中家探しを行い、修習に備えた。

### 2 実務修習

幸いなことに、秋田の方々是我々修習生を大変温かく迎えて下さり、実務修習では懇切丁寧な指導を頂いた。

弁護修習では、指導担当弁護士の法律相談に毎回同席させて頂き、限られた時間での確かな回答をするために必要な情報を過不足なく聴き取るための技術を学んだ。私の要領を得ない起案が添削を通して簡潔明瞭かつ的確を射た書面に生まれ変わっていく様を直に見ては感動を覚えた。私の理想とする起案のイメージは弁護修習を通して形成されたと言ってよい。

検察修習では、被疑者自身の口から真実を語らせるにはどうしたらよいのか、試行錯誤しながら取調べに取り組んだ。裁判修習では、裁判官の思考の緻密さ、事案把握のスピード、訴訟指揮の的確さにプロの仕事を感じた。

### 3 秋田生活を満喫

秋田に配属されたのは私を含めて16名であった。少人数な分、人間関係は密であり、公私にわたり行動を共にすることが多かった。

まず、秋田といえば雪国、雪国といえばスキーである。私は普段スポーツとは殆ど縁がない自他共に認めるインドア派であるが、スキーにはまったことで驚くべきアウト

ドア力を発揮する。同期との旅行だけではなく、個人的にも毎週のようにスキー場に足を運び、全くの素人が、シーズンが終わる頃には上級コースを転ぶことなく滑降できるまでに上達した。

雪国の魅力は冬だけではない。日本三大花火大会の1つでもある大曲の花火。修習仲間と桟敷席から灰が直接降り注ぐ程の至近距離で鑑賞した花火の迫力は今でも忘れられない。東北三大祭りの1つ、竿燈祭りでは、黄金の稲穂を思わせる光のページェントや重さが数十キログラムもある竿燈を自在に操る演者の妙技、普段の人通りからは想像できない大勢の観客の賑わいに圧倒された。

その他にも、同期の自宅で頻繁に行った鍋パーティーや日本酒鑑賞会、夜を徹して行われた勉強合宿、山歩き、ラーメンの食べ歩き等々、思い出を挙げればきりが無い。

秋田での生活は約10か月という長いようで短い期間であったが、沢山の方々にお世話になった。

### 4 集合修習

二回試験直前の2か月間は和光で集合修習を行った。秋田での長閑な生活は一変、研修所では即日起案と解説講義の繰り返し、帰宅後は白表紙の復習という怒涛の日々であり、その生活は受験生そのものであった。修習期間の短期化もあってか、例年相当数の不合格者が出ていたため非常に心臓に悪い試験であったが、無事合格できたのは教官の熱心な指導と同期の協力があったからであろう。持つべきものは仲間であると強く感じた。

### 5 おわりに

良き指導者と良き仲間にも恵まれた修習であった。秋田で育てられた法曹として、その恩を少しでも世に還元していけるよう、今後も研鑽を積んでいく所存である。